

リーディングス 日本の教育と社会

監修 広田照幸

第Ⅱ期・全10巻

2008年11月より刊行開始

A5判・上製カバー・平均380頁



第1回配本 2008年11月刊行

第13巻 教育の不平等

編著 小内 透
定価3,675円 ISBN978-4-284-30257-9

第16巻 ジェンダーと教育

編著 木村涼子
定価3,675円 ISBN978-4-284-30260-9

第2回配本 2009年2月刊行

第14巻 教師と子ども

編著 秋田喜代美
定価3,675円 ISBN978-4-284-30258-6

第15巻 教師という仕事

編著 油布佐和子
定価3,675円 ISBN978-4-284-30259-3

第3回配本 2009年5月刊行

第17巻 エスニシティと教育

編著 志水宏吉
定価3,675円 ISBN978-4-284-30261-6

第18巻 若者とアイデンティティ

編著 浅野智彦
定価3,675円 ISBN978-4-284-30262-3

第19巻 仕事と若者

編著 本田由紀・筒井美紀
定価3,675円 ISBN978-4-284-30263-0

第4回配本 2009年6月刊行

第11巻 学校改革

編著 藤田英典・大桃敏行
定価3,675円 ISBN978-4-284-30255-5

第12巻 高等教育

編著 塚原修一
定価3,675円 ISBN978-4-284-30256-2

第20巻 世界から見た日本の教育

編集 ラリー・マクドナルド
翻訳 橋本鉦市・菊池栄治・山田浩之
定価3,675円 ISBN978-4-284-30264-7

教育の「いま」を読み解き、「未来」につなぐ知のアンソロジー!

リーディングス 日本の教育と社会

監修 広田照幸

待望の第Ⅱ期
刊行開始!!

[第Ⅱ期編者]
藤田英典
大桃敏行
塚原修一
小内 透
秋田喜代美
油布佐和子
木村涼子
志水宏吉
浅野智彦
本田由紀
筒井美紀
L.マクドナルド



全10巻

日本図書センター

注文書	お近くの書店へお申し込みください。日本図書センター		TEL 03-3947-9387 FAX 03-3947-1774	注文数
書店印	リーディングス 日本の教育と社会	第Ⅰ期 全10巻	ISBN978-4-284-30115-2 定価36,750円	セット
	リーディングス 日本の教育と社会	第Ⅱ期 全10巻	ISBN978-4-284-30254-8 定価36,750円	セット
	第11巻	学校改革	ISBN978-4-284-30255-5 定価3,675円	冊
	第12巻	高等教育	ISBN978-4-284-30256-2 定価3,675円	冊
	第13巻	教育の不平等	ISBN978-4-284-30257-9 定価3,675円	冊
	第14巻	教師と子ども	ISBN978-4-284-30258-6 定価3,675円	冊
	第15巻	教師という仕事	ISBN978-4-284-30259-3 定価3,675円	冊
	第16巻	ジェンダーと教育	ISBN978-4-284-30260-9 定価3,675円	冊
	第17巻	エスニシティと教育	ISBN978-4-284-30261-6 定価3,675円	冊
	第18巻	若者とアイデンティティ	ISBN978-4-284-30262-3 定価3,675円	冊
	第19巻	仕事と若者	ISBN978-4-284-30263-0 定価3,675円	冊
	第20巻	世界から見た日本の教育	ISBN978-4-284-30264-7 定価3,675円	冊
お名前	ご住所		TEL	



撮影/牧野貴史

近年のデータベースの整備等により、教育の諸問題に関わる研究の情報も、その入手はきわめて容易になった。しかし、その一方で、大量の論文が生産されるようになってきた結果、主要なキイ・ワードに対するヒット件数があまりに膨大になり、かえって情報の大海の中で方向がわからなくなるという事態も生じている。「知」の世界の広がりを見通すのがなかなか難しい時代である。

そうした中で、学部学生・大学院生や、教員をはじめとする教育関係者の方々などに、特定主題に関する学問の広がりや深まりをコンパクトに伝えたいというのが、本リーディングスの大きなねらいである。

教育の諸問題は、現象の考察・分析をおざなりにして「どうすべきか」を性急に問うと、視野が狭い一面的な対応に陥りやすい。教育に関する日常の常識は、誤謬や偏見をたっぷり抱え込んでしまいがちだからである。特に、社会的視点が欠落した教育論にそれが強い。まずは、「何が起きているのか」「現象をどうみるべきか」「どの側面からその事態を考えていけばよいのか」について、社会的視点をふまえて掘り下げる必要がある。

教育と社会の関係は、教育が社会の変化に影響を与える側面、社会が教育のあり方に影響を与える側面、教育の場や関係が一つの社会的なものとして存立している側面など、多面的である。本リーディングスは、そうしたさまざまな面をあつかった、すぐれた論文を集めて収録した。

実証的な社会科学的手法が隠れた構造や機能を明るみに出すこともある。深い思想的な洞察が、現象の背後の本質をつかまえることもある。歴史的な視点や比較という視点が、目の前の現象に固有な特徴を浮き彫りにすることもある。このような教育研究の「知」の世界の広がりが多いの方に理解され、さまざまな現象がそのレベルからとらえ直された時、教育問題をめぐる議論は、より視野が広くバランスがとれたものになるはずである。

シリーズの特色

- 1 混迷を深める現代教育における20の諸問題を、「社会」とのかかわりから深く考察する、教育分野では初の本格的なリーディングスシリーズ。
- 2 教育の現在、そして未来を考えるうえで重要な論文・資料(平均25点)を、気鋭の研究者たちがテーマごとにセレクト。
- 3 目まぐるしく変化する教育問題の動向を的確にとらえるため、収録論文・資料を最近10年-15年間に発表されたものを中心に収録。
- 4 テーマの全体像や収録論文・資料の果たす役割について、各巻の編者が懇切丁寧に解説。
- 5 各巻末にはそれぞれのテーマにアプローチする際、便利な「主要論文一覧」を収録。

推薦します

(50音順に表記)

教育の混迷を解き明かし、明日への希望をつむぐ知の宝庫!



尾木直樹 (教育評論家・法政大学教授)

今日の教育界は、かつて経験したことのない程混迷と矛盾を深めている。

少年による凶悪事件が連続すると、少年をバッシングし、親の責任を問う。学校では「教育の構造改革」の名の下に、「学力の向上」をテコにしたエリート教育や教育の差別化が教育条理を無視し、市場主義原理に乗って進む。21世紀を切り拓くにふさわしい「地球市民の育成」の視点など片鱗も見られない。PTAからは「挨拶カレンダー」が各家庭に配布され、計算の「反復ドリル」や「早寝・早起・朝ご飯」運動が推奨される。

どんな学力かを問うこともなく、授業時数を一時間でも増やし、全国一斉テストで競わせれば、学力が伸びると信じているようだ。

子どもの尊厳を守り、学校や地域づくりに参画

させる気もないのに、ペナルティだけは強化し個人責任を問う。

今日の大人社会は、次世代の子どもたちを成長させる広やかな心構えもその力量も喪失したのではないか。

そんな絶望的な折も折、本シリーズは子どもに寄り添いながら現象の深層に分け入ろうとしている。社会的・歴史的視点から事の本質を分析しようとしている。同時にどうすべきか、総合的・科学的展望をも力強く提示している。

なんとタイムリーな企画であることか。

必ずや今日の教育の混迷を解き明かし、明日への希望をつむぎ出してくれるに違いない。是非、揃えたいシリーズである。

あなたも教育を社会科学してみませんか?

荻谷剛彦 (東京大学教授)



日本の教育の論じ方が変わろうとしている。かつては、高く掲げられた理想的な視点から、現実の教育の問題点をたたく「べき論」や、個別の経験や印象に基づく体験的教育論が幅をきかせていた。マスコミに代表されるような、型どおりの見方に凝り固まった教育批判もあふれていた。

ところが、近年、教育の実態を正確に捉え、さらには教育を取り巻くさまざまな環境との関係をしっかりふまえなければ、どんな理想論も教育批判も地に足のついた議論にはならない、そういう見方が、少しずつだが、社会で受け入れられるようになってきた。一言で言えば、実証性を重んじる社会科学的教育研究である。今回発行となる「リーディングス・日本の教育と社会」は、そうした

新しい教育研究の宝庫である。

各巻に収められた論考は、いずれも第一線で活躍する教育の社会学者たちの手による。取り上げられるテーマも、現在、そして近未来の教育を考える上で、喫緊の課題に 대응するものばかりだ。実証的な研究の集大成だけに、重要なデータも満載である。先端的な分析方法や理論的な背景を学ぶこともできる。大学教育の場ではもちろんのこと、広く一般の読者にとっても、教育問題への社会的アプローチを学ぶ絶好のテキストなのである。

あなたも、教育を社会科学的に考えてみませんか。その扉が、このシリーズによって開かれようとしている。

表層的に語られがちな「教育問題」の深層を読み解く 洗練されたアンソロジー



佐藤 学 (日本教育学会会長・東京大学教授)

「教育問題」がこれほど人々の関心を集めているのは、おそらく、問題の一つひとつが現代日本の社会が抱え込む深部の問題と直結しているからだろう。しかし、「教育問題」は、人々の関心が強いだけに、そして誰もが一家言を持っているだけに、それぞれの印象によって表層的に語られがちであり、その本質や深層が究明されないまま、マスメディアの市場において「ブーム」として浮沈し消費されがちである。現代日本の「教育問題」を20のテーマに整理し、それぞれのテーマに関する最近10年間の重要な論文を解題付きで編集したこのシリーズは、とかく表層的に語られがちな「教育問題」の深層を読み解く洗練されたアンソロジー

である。

このシリーズの魅力は、誰もが関心を寄せる「教育問題」を、現代日本の社会構造の変化と結びつけて「問題」の現象の布置を明らかにし、その社会的・歴史的意味を解説している点にある。「教育問題」の今を読み解くことは、明日の社会への展望を読み解くことに直結している。大学の講義やゼミナールの参考資料として、市民の研究会のテキストとして、さらには「教育問題」を報道するジャーナリストの必読文献として、本シリーズが一人でも多くの人々によって活用されることを期待したい。



●定価3,675円
●A5判上製

第13巻 編著 小内 透 (北海道大学)

第1回配本 2008年11月刊行

教育の不等

I：階層と教育

「『階層と教育』問題の底流」 刈谷剛彦
「階層社会の変容と教育」 近藤博之
「社会階層と階層意識の国際比較」 石田 浩
「途上国の貧困と教育—教育機会の不平等という論点」 佐々木 宏

II：貧困・マイノリティとエリート

「貧困の世代的再生産の視点」 青木 紀
「学力からみた不平等問題」 原田 彰
「20世紀のエリート像」 山内乾史
「誰が学歴貴族になったか」 竹内 洋

III：地域間格差と学校間格差

「わが国における教育水準の地域格差—大学卒業者を中心として」 川田 力
「ローカル・トラック論」 吉川 徹
「戦後日本の高校間格差成立過程と社会階層—1985年SSM調査データの分析を通じて」 中西祐子・中村高康・大内裕和

「進路選択の構造と変容」 耳塚寛明

IV：不平等への多様な視点

「現代日本社会と新しい不平等—『社会階層と不平等研究教育拠点』開設記念講演から」 原 純輔
「環境が人をつくる、か?—学力格差をめぐる『公正』」 宮寺晃夫
「階級・階層構造の再生産・変動と正当化」 小内 透
「能力に基づく差別の廃棄」 竹内章郎

V：不平等をめぐる政策論

「疑似市場的な教育制度構想の特徴と問題点」 藤田英典
「教育社会学はいかに格差・不平等と闘えるのか?」 広田照幸
「移行システム分解過程における能力観の転換と社会関係資本—『質の高い教育』の平等な保障をどう構想するか?」 平塚真樹

第16巻 編著 木村涼子 (大阪大学)

第1回配本 2008年11月刊行

ジェンダーと教育

I：ジェンダー・パースペクティブと教育研究の出会い

「ジェンダーが教育に問いかけたこと」 亀田温子
「女性教員『問題』論の構図」 河上婦志子
「フェミニズム教育学」 入江直子
「『ジェンダー・フリー』教育を再考する—担い手の立場から、ジェンダーに敏感な教育を考える」 日野玲子

II：性別の社会化のしくみ

「幼児期におけるジェンダー形成と子ども文化」 藤田由美子
「アニメの国」 斎藤美奈子
「ジェンダー・サブカルチャーのダイナミクス—女子高におけるエスノグラフィーをもとに」 宮崎あゆみ
「ジェンダー化された身体を超えて—『男の』身体 の政治性」 蔦森 樹
「教育達成過程における家族の教育戦略—文化資本効果と学校外教育投資効果のジェンダー差を中心に」 片岡栄美

III：学校教育におけるジェンダー形成

「教室におけるジェンダーの形成」 木村涼子
「学校教育における〈母〉のメタファー—教師の家庭科観から」 堀内かおる

「男女いっしょの体育は無理?—スポーツ・身体とジェンダー」 熊安貴美江
「ジェンダー・トラック—性役割観に基づく進路分化メカニズムに関する考察」 中西祐子
「教育達成のジェンダー構造」 尾嶋史章・近藤博之

IV：ジェンダーの視点からの教育史

「良妻賢母思想と公教育体制」 小山静子
「高女教育の社会的機能」 吉田 文
「植民地教育とジェンダー—教育版植民地近代化論を再考する」 金 富子
「教育家族の成立」 沢山美果子

V：新たな動き

「理科好きな女子・男子を増やすために」 村松泰子・河野銀子
「男性のエンパワーメント?—社会経済的変化と男性の『危機』」 多賀 太
「『ギャル系』が意味するもの：〈女子高生〉をめぐるメディア環境と思春期女子のセルフイメージについて」 佐藤 (佐久間) りか
「ジェンダー・就労・再生産—社会的に不利な立場に置かれたフリーター女性の語りから」 内田龍史
「少子化時代の育児戦略とジェンダー」 天童陸子

第14巻 編著 秋田喜代美 (東京大学)

第2回配本 2009年2月刊行

教師と子ども

I：学校・教師・子どもの問題構図

「変動する日本社会と教師たち—その混乱、葛藤、そして『乗り切り(?)』」 久富善之
「市場化する社会における子どもと学校空間の変容」 稲垣恭子
「『学校文化』に埋め込まれる教師」 永井聖二
「教師バーンアウトのダイナミズム—解釈的アプローチと生態学的視座によるバーンアウトモデルの構築」

落合美貴子

II：授業を創る教師の専門性

「教育実践の構造と教師の役割」 稲垣忠彦
「教室の生成—ある算数の授業を事例として」 西岡けいこ
「教師のカリキュラム経験—実践的知識の形成と教師の成長」 藤原 顕



●定価3,675円
●A5判上製



●定価3,675円
●A5判上製

III：教室での生徒との関わり

「教室談話の成立機制—行為—ローカルな文化—制度的装置の相互関連に着目して」 藤江康彦
「教室における教師の『振る舞い方』の諸相—教師の教育実践のエスノグラフィー」 清水睦美
「教師のピリフと教授行為との関連からみた授業の教育臨床学—小・中学校における理科の授業の比較分析にもとづいて」 酒井 朗・金田裕子・村瀬公胤
「学級の中の子どもたち—光を浴びる子どもと影に置かれる子ども」 近藤邦夫
「子どもは『叱り』をどのように感じているか」 竹内史宗

IV：指導という行為

「『指導』の変容—中学校文化の歴史的変化」 志水宏吉

第15巻 編著 油布佐和子 (早稲田大学)

第2回配本 2009年2月刊行

教師という仕事

I：日本の教師

「教師の仕事と教師文化に関するエスノグラフィ的研究—その研究枠組と若干の実証的考察」 藤田英典・油布佐和子・酒井 朗・秋葉昌樹
「日本の教師文化の特徴」 臼井 博
「教師は何を期待されてきたか—教師役割の変化を追う」 油布佐和子
「教育改革は本当に必要だったのか」 赤田圭亮

II：教師の養成と成長、その変化

「教師のライフヒストリー」 松平信久・山崎準二
「『大学における教員養成』を考える」 横須賀 薫
「なぜ、いま教員免許更新制なのか—教育ポピュリズムにさらされる教師たち」 佐久間亜紀
「東京都教員人事考課制度に関する—考察」 笹田茂樹

III：教師の組織・集団とその変化

「教師間コミュニケーションに関する実証的研究—情報ネットワークの構造と機能に注目して」 山田真紀・藤田英典
「協働の同僚性としての《チーム》—学校臨床社会学から」 紅林伸幸
「日本の教師—今日の『教育改革』下の教師および教員文化」 久富善之

第17巻 編著 志水宏吉 (大阪大学)

第3回配本 2009年5月刊行

エスニシティと教育

I：グローバル化と日本社会

「現代日本の外国人労働者政策—再考—西欧諸国との比較を通して」 梶田孝道
「グローバル化時代の教育と市民権」 佐久間孝正
「『人種差別主義』とはなにか」 小森陽一

II：教育におけるエスニシティへの対応—国際比較

「公教育における多文化教育の展開」 江原武一
「多文化教育における『公正な教育方法』再考—日米教育実践のエスノグラフィー」 額賀美妙子
「マイノリティー・グループと学校文化—システム内的要因による変化」 志水宏吉

III：日本のエスニックグループ

「民族という不自由—在日二世の選択」 金 泰泳
「沖縄のアメラジアン—教育権保障運動が示唆していること」 野入直美
「在日日系ブラジル人ティーンエイジャーの『抵抗』—文化人類学と批判的教育学の視点から」 山ノ内裕子

「教師は生徒指導をいかに体験するか?—中学校教師の生徒指導をめぐる問題」 松嶋秀明
「教師に生ずる感情と指導の関係についての研究—中学校教師を対象として」 河村夏代・鈴木啓嗣・岩井圭司
「現代女子高校生のアイデンティティ形成」 上岡陽子

V：学校での専門性開発と学校文化の形成

「教師の成長と授業研究」 藤岡完治
「教師教育から教師の学習過程研究への転回—ミクロ教育実践研究への変貌」 秋田喜代美
「活動の措置としての学校—改革のデザインから実践の科学へ」 佐藤 学

「『開かれた学校』づくりの諸施策に対する教員の意識に関する研究」 岩永 定・芝山明義・岩城孝次

IV：教師の勤務条件とその変化

「高度経済成長期における教員給与と教員生活」 門脇厚司
「高度経済成長期以後の教員特性と教員生活」 門脇厚司
「教師の勤務条件と人事」 小川正人
「ジェンダーでみる日教組の30年—労働条件をめぐる『たたかい』の軌跡」 河上婦志子
「教員人事行政における都道府県教育委員会の機能とその規定要因—市町村教育委員会および教育事務所との役割分担に着目して」 川上泰彦

V：教師・教職に期待されるもの

「問われる教育の公共性と教師の役割—教育改革のゆくえ」 藤田英典
「『制度改革』のなかの教師—教育の専門性・公共性・臨床性の確立に向けて」 越智康詞
「教師の省察と見識—教職専門性の基礎」 佐藤 学
「教師専門職化の再検討」 今津孝次郎

I：グローバル化と日本社会

「現代日本の外国人労働者政策—再考—西欧諸国との比較を通して」 梶田孝道
「グローバル化時代の教育と市民権」 佐久間孝正
「『人種差別主義』とはなにか」 小森陽一

II：教育におけるエスニシティへの対応—国際比較

「公教育における多文化教育の展開」 江原武一
「多文化教育における『公正な教育方法』再考—日米教育実践のエスノグラフィー」 額賀美妙子
「マイノリティー・グループと学校文化—システム内的要因による変化」 志水宏吉

III：日本のエスニックグループ

「民族という不自由—在日二世の選択」 金 泰泳
「沖縄のアメラジアン—教育権保障運動が示唆していること」 野入直美
「在日日系ブラジル人ティーンエイジャーの『抵抗』—文化人類学と批判的教育学の視点から」 山ノ内裕子

「中国出身生徒の進路規定要因—大阪の中国帰国生徒を中心に」 鍛冶 致

IV：学校文化とエスニシティ

「ニューカマーの子どもの学校教育—日本的対応の再考」 太田晴雄
「ニューカマー受け入れ校における学校文化『境界枠』の変容—公立中学校日本語教師のストラテジーに注目して」 児島 明
「日本におけるマイノリティの文化的諸条件—外国人の子ども教育における言語と文化資本」 宮島 喬
「日本の学校とエスニック学校—はざまにおかれた子どもたち」 山脇千賀子

V：変革の可能性

「ニューカマーの子どもたちの日常世界への接近」 清水睦美
「人権を重視する受け入れ体制」 駒井 洋
「支援—被支援関係の転換—ニューカマーの教育支援と『当事者性』」 中島葉子



- 定価3,675円
- A5判上製

第18巻

編著 **浅野智彦** (東京学芸大学)

第3回配本 2009年5月刊行

若者とアイデンティティ

- I：アイデンティティの歴史を振り返る**
「モラトリアム・若者・社会—エリクソンと青年論・若者論」小谷 敏
「〈やさしさ〉の変容」栗原 彬
「若者文化の析出と融解—文化志向の終焉と関係嗜好の高揚」山田真茂留
- II：コミュニケーションの変容**
「おたくについて」中島 梓
「自閉化にむかうアイデンティティ」天野義智
「新人類とおたくとは何だったのか」宮台真司
- III：多元化するアイデンティティ**
「親密性の新しい形へ」浅野智彦
「解離現象からみた『おたくとオウム』」斎藤 環
「マルチストーリー／マルチエンディング」大澤真幸



- 定価3,675円
- A5判上製

第19巻

編著 **本田由紀** (東京大学)・**筒井美紀** (京都女子大学)

第3回配本 2009年5月刊行

仕事と若者

- I：若年就労問題の背景**
「『パラサイト・シングル』の言い分」玄田有史
「年功序列の光と影」城 繁幸
「貧困化と二極化のなかの女性労働」中野麻美
「高卒就職の認識社会学—『質の内実』が『伝わる』ことの難しさ」筒井美紀
「『知育偏重』論をなぜ克服できないか?」田中萬年
「若年労働市場の構造変化と雇用政策—欧米の経験」三谷直紀
- II：社会的変数の影響**
「若者の教育から職業への移行における『格差』形成—日本型選抜の趨勢と支援」堀 有喜衣
「ジェンダーとフリーター・ニート 性別役割分業は若者の就業にどう影響するのか」村上あかね
「若年無業者の実像—経歴・スキル・意識」本田由紀・堀田聰子
「地域の中の若年雇用問題」太田聰一

- 「『個性的な自分』という強迫衝動」土井隆義
- IV：労働とアイデンティティ**
「就職しない」小杉礼子
「90年代に生じた青年文化の地殻変動」中西新太郎
「バイク便ライダーのエスノグラフィー—危険労働にはまる若者たち」阿部真大
「『圏外』を逃れて—自分中毒としての携帯電話」鈴木謙介
- V：ポスト「消費社会論」的消費社会**
「消費の物語の喪失と、さまざま『自分らしさ』」三浦 展
「現代大学生の生き方とキャンパスライフ—1990年代以降」溝上慎一

- III：仕事に対する若者の意識**
「『やりたいこと』という論理—フリーターの語りとその意図せざる帰結」久木元真吾
「『自分らしさ』志向は若者だけのものか?」阿部真大
「召喚されるふたつの『墓堀り人』 小泉支持と正社員願望」高原基彰
「若年若者の形成と現存」林 真人

- IV：若年就労問題への社会的視線とそれに対する若者による抵抗・運動**
「フリーター・ニートとは誰か つくられるイメージと社会的視点の封印」児美川孝一郎
「お前もニートだ」内藤朝雄
「ロストジェネレーションの仕組まれた生きづらさ 『九五十年ショック』と強要される『自分探し』」雨宮処凛
「生活困窮フリーターと『貧困ビジネス』」湯浅 誠
「偽装請負—内部告発者の現状」小森 彦
「フリーター全般労働組合についてのあれこれと詩」安里 健・高橋良平

2009年6月刊行予定

第11巻 学校改革

編著 **藤田英典** (国際基督教大学)・**大桃敏行** (東北大学)

第12巻 高等教育

編著 **塚原修一** (国立教育政策研究所)

第20巻 世界から見た日本の教育

編集 **ラリー・マクドナルド** (創価大学)

翻訳 **橋本鉦市** (東北大学)・**菊池栄治** (早稲田大学)・**山田浩之** (広島大学)

※収録内容は変更になる場合もございます。

第1期・全10巻の主な内容

第1巻 編著 **山内乾史** (神戸大学)・**原清治** (佛教大学)

学力問題・ゆとり教育

- I：ゆとり教育の実施と学力論争**
「なぜ、今『ゆとり教育』なのか」寺脇 研
「日本の大学生の数学力—学力調査1999—」戸瀬信之・西村和雄
「不平等問題のダブルスタンダードと『能力主義的差別』」刈谷理彦 ほか
- II：学力の実証的研究**
「小学校の授業経験と中学校時の学力」清水睦美
「低学力克服への戦略—『効果のある学校』論の視点から」志水宏吉
- 「若者の就業機会の減少と学力低下問題」太田聰一 ほか
- III：学力のメルクマールをめくって**
「習熟とは何か—熟達化研究の視点から」松下佳代
「学力評価研究の最前線—若者の『まじめ』は崩壊したか」轟 亮
「教育アスピレーションの変容」片瀬一男 ほか
- IV：学力問題の展開と教育改革の方向**
「楽しい授業—学校論の系譜学」松下良平
「日本の教育改革が進むべき方向」諏訪昌郎
「教育改革を読む」小谷 敏・関 廣野 ほか

第2巻 編著 **本田由紀** (東京大学)・**平沢和司** (北海道大学)

学歴社会・受験競争

- I：選抜・競争と社会変動**
「なくならない学歴社会」原 純輔・盛山和夫
「社会階層と進路形成の変容—90年代の変化を考える」尾嶋史章
「現代社会で求められる『能力』」本田由紀 ほか
- II：学歴取得の機会と学歴によるキャリアへの影響**
「教育と社会移動の趨勢」近藤博之
「高度成長期以降の学歴—キャリア・所得—所得開度の変化にみられる日本社会の一断面」島 一則
「会社のなかの学歴社会」大橋勇雄 ほか
- III：学校から職業への移行**
「就職と選抜」竹内 洋
「地位達成過程と社会構造—制度的連結理論の批判的再検討」佐藤嘉倫
- 「学校と職業社会の接続—増加するフリーター経由の移行」小杉礼子 ほか
- IV：競争意識の変化**
「〈自信〉の構造—セルフ・エスティームと教育における不平等」刈谷剛彦
「職業観と学校生活感—若者の『まじめ』は崩壊したか」轟 亮
「教育アスピレーションの変容」片瀬一男 ほか
- V：競争と選抜の国際比較**
「学歴取得と学歴効用の国際比較」石田 浩
「教育アスピレーションの加熱—冷却」中村高康
「高校教育における日本とシンガポールのメトリクス—選抜度の低い学校に着目して」シム・チュン・キャット ほか

第3巻 編著 **広田照幸** (日本大学)

子育て・しつけ

- I：家族の変動**
「家族新時代への胎動」野々山久也
「家族の個人化」山田昌弘
「育児不安と家族の危機」山根真理 ほか
- II：子育てエージェント**
「変容するアジア諸社会における育児援助ネットワークとジェンダー」落合恵子ほか
「性別分業が否定される中で父親役割」多賀 太
「女性たちの選択—自分が戦うか、子どもに戦わせるか—」本田由紀 ほか
- III：しつけの難しさ**
「幼児教育のイデオロギーと相互作用」柴野昌山
「母性愛神話・三歳児神話をどう見るか」大日向雅美
「家族によるしつけを困難にしている要因」千葉聡子 ほか
- IV：子育ての未来**
「育児戦略と家族政策のなかのジェンダー」船橋恵子
「レバラル新優生学と設計的生命観」金森 修
「家族は子どもの教育にどうかかわるか」インカフ エウニセ アケミ ほか
- V：歴史から**
「民衆の子育ての習俗とその思想」田嶋 一
「近世日本・庶民の子どもと若者」神辺晴光
「戦後日本の親子関係—養育期の親子関係の質の変遷—」渡辺秀樹 ほか

第4巻 編著 **市川昭午** (元国立大学附帯 経営センター・国立教育政策研究所)

教育基本法

- I：改正必要論**
「漂流する日本をどう再構築するか」中曾根康弘 ほか
「教育基本法の欠点」小田村四郎
「型の道徳教育—教育勅語」加地伸行 ほか
- II：改正の提言**
「これからの教育の方向性に関する提言」日本経済団体連合会
「新教育基本法案」教育基本法改正促進委員会
「新しい教育基本法を求める要望書」新しい教育基本法を求める会 ほか
- III：改正反対論**
「いまなぜ教育基本法改正か?」渡辺 治
「教育基本法と教育改革—教育基本法制の構造的再編」三上昭彦
- 「教育基本法を生かす教育改革を」堀尾輝久 ほか
- IV：当面不要論**
「早急に改正する必要はない」市川昭午
「学校・家庭・地域はどのような影響を受けるか」広田照幸
「教育権と教育基本法改正問題」今野健一 ほか
- V：未解決の諸問題**
「戦後教育のアポリタ—権力なき教育はありうるか」高橋哲哉
「教育基本法の性格と『改正』問題の法的検証」成嶋 肇
「(教育行政) 第10条」今橋勝悟 ほか

第5巻 編著 **大内裕和** (松山大学)

愛国心と教育

- I：戦時・戦後教育における愛国心**
「超国家主義の論理と心理」丸山眞男
「一般兵卒の〈精神教育〉」広田照幸
「1960年の方言札—戦後沖縄教育と復讐運動」小熊英二 ほか
- II：愛国心・国家主義教育についての提言**
「日本人の未来」(第5分科会報告書) 『21世紀日本の構想』懇談会
「教育改革国民会議報告—教育を変える17の提案」教育改革国民会議
「めざす国のかたち」日本経済団体連合会 ほか
- III：新国家主義**
「『祖国のために死ぬ』ということ」佐伯啓忠
「国民と民族」坂本多加雄
「トリアリズムの時代」松本健一 ほか
- IV：グローバル化のなかの教育と国家**
「グローバル化時代の公教育」中村 満
- 「グローバリゼーションと教育」矢野義和
「『グローバル国家』戦略と公教育改革」進藤 兵 ほか
- V：愛国心教育と教育現場の自由**
「愛国主義教育体制における『教師の自由』と教育内容の中立性」西原博史
「『教師』への職務命令に関する憲法・教育法学的検討—教師たる『個人』の人性・『教師』の職務権限・職責と職務命令との相剋の解を求めて」新聞昌幸 ほか
- VI：愛国心・ナショナリズムへの批判的検討**
「敵は味方である」広田照幸
「ネオ・ナショナリズム台頭の背景と役割」渡辺 治
「民主から愛国へ—教育基本法改正論批判」大内裕和 ほか

第6巻 編著 **三谷 博** (東京大学)

歴史教科書問題

- I：問題化の構造—日本のネオ・ナショナリズムと国際相互依存**
「『左』を忌避するポピュリズム—現代ナショナリズムの構造とゆらぎ」小熊英二
「『歴史和解』への道標—戦後日本外交における『歴史問題』」波多野澄雄
「今日の〈歴史認識〉論争をめぐる状況と論点」高橋哲哉 ほか
- II：21世紀初頭の制度と論争構図**
「日本の教科書制度の検証—検定と採択をめぐる問題状況」渡本勝年
「採択協議会は『決定機関』か『諮問機関』か—下都賀地区の逆転不採択事件を中心に」藤岡信勝
「歴史教育とは何か」坂本多加雄 ほか
- III：『戦後』の問題構造 国内問題としての東教教科書訴訟**
- 「教科書訴訟十年」家永三郎
「憂うべき教科書検定」家永三郎
「戦後の歴史教育はこれだけよいか」村尾次郎 ほか
- IV：近隣諸国 歴史教科書とナショナリズム**
「韓国につまとう歴史の影とその克服のための試み」鄭 在貞
「中国教科書の世界・日本像」並木頼秀
「歴史認識—中国外交の思想的根拠」劉 傑 ほか
- V：提言 国境をまたぐ歴史認識を求めて**
「東アジアの歴史認識共有への第一歩—『未来をひらく歴史』の執筆過程と韓国国内の反応」金 聖用・牧瀬暎子 訳
「南京大虐殺の課題—歴史研究についての考察」楊 大慶・岡田良之助 訳
「国民国家の内と外—東アジアの領有権紛争と歴史論争に寄せて」林 志強・河かおる 訳 ほか

第7巻 編著 **浅井春夫** (立教大学)

子どもと性

- I：子どもの性行動・性意識の現状**
「性行動・性意識から見た日本人像」若岡聖樹・辻 泉
「異性関係の変容と学校集団の影響」渡辺裕子
「日本の地下経済の実態(抄録)」門倉真史 ほか
- II：性的人権と多様なセクシュアリティ**
「現代の『性』をめぐる状況と性解放の視点」池谷善夫
「子どものセクシアル・ライツ—人権としての性の位置づけ」浅井春夫
「男権制と男権主義的セクシュアリティ」杉田 聡 ほか
- III：子どもの性的発達とその困難性**
「ライフステージでみるセクシュアリティの看護」高村寿子
「シレンマのなかの男の子たち—相次ぐ『普通の男の子』の『凶悪』事件の背後にあるもの」伊藤公雄
- 「男の性と生殖—男性身体の語り方」荻野美穂 ほか
- IV：性教育の理論と実践**
「『生殖の性』は扱いやすいが、『快楽の性』も取り入れよう」山本直英
「ジェンダーという視点から『両性』の平等と性教育の課題を考える」村瀬幸造
「性教育のキーワードを検証し、新たな視点を」金子由美子 ほか
- V：性の政策と性教育の歴史から**
「わが国・性教育の歩み—『自慰』を通してたどる歴史」山本直英
「性差と教育—近代日本の性教育論にみられる男女の関係性」田代実江子
「『ジェンダーフリー教育』のコンセプト」籠 かおる
「ジェンダー・シンボルとしてのスポーツの登場」来田享子・阿部 潔 ほか

第8巻 編著 **伊藤茂樹** (駒澤大学)

いじめ・不登校

- I：いじめの社会的要因論**
「学校文化論」小浜逸郎
「『いじめ』の見え方」森田洋司
「いじめの社会関係論」内藤朝雄 ほか
- II：不登校の社会的要因論**
「ポント理論による不登校生成モデル」森田洋司
「今日の生活破壊と子ども・学校」久富善之
「長期欠席と不登校の実態」保坂 亨 ほか
- III：言説がつくるいじめ問題**
「フィクションとしての『いじめ問題』—言説の呪縛からの解放を求めよ」北澤 勲
「概念分析としての言説分析—『いじめ自殺』の〈根拠—解消〉へ向けて」間山広朗
- 「『ナレーター』としての新聞報道—客観報道はどのように成立しているのか」片桐隆剛 ほか
- IV：不登校と学校教育をめぐる政治**
「不登校はどう理解されてきたか」滝川一廣
「不登校現象からみる学校教育の変容—登校自明性の低下とパブリシティの拡大」樋田大二郎
「不登校」だれが、なにを語ってきたか」山田 潤 ほか
- V：いじめ・不登校への取り組み**
「心の問題」としてのいじめ問題」伊藤茂樹
「支援・援助の偏重の危険性」吉田武男
「いじめからの解放を求めよ」北澤 勲
「『いじめ自殺』カテゴリーと自己定義」朝倉景樹 ほか

第9巻 編著 **北澤 毅** (立教大学)

非行・少年犯罪

- I：非行理論の諸相—基礎理論と展開**
「犯罪社会学における実証主義的思潮とポンド・セオリー」森田洋司
「ラベリング論の概観」徳岡義雄
「社会問題とは何か—構造主義アプローチへの招待」中河伸徳 ほか
- II：非行(事実)の社会的構成—公式統計とマスメディア報道**
「暗数論—社会問題研究方法論ノート」村上直之
「非行統計の社会的構成と社会的反作用」高原正典
「青少年の凶悪化」言説の再検討」 広田照幸 ほか
- III：学校文化と逸脱**
「校則の社会学的研究」越智康詞
「校則問題のエスノメソッドロジー—『バーマ返学事件』を事例として」石飛和彦
「学歴アノミーと中・高生非行」米川茂信 ほか
- IV：少年法と処遇の現在**
「子どもの〈責任〉—ほんとうにいま子どもは『未熟』であるのか」佐藤直樹
「犯罪被害者問題の勃興と『バタナリズム—少年法改正をめぐる構築と崩壊の力学』」土井隆義
「犯罪者処遇は有効である—実証研究の解明した事実に基づいた見解」津富 宏 ほか

第10巻 編著 **北田暁大** (東京大学)・**大多和直樹** (東京大学)

子どもとニューメディア

- I：メディア環境と子ども**
「学校化・情報化と人間形成空間の変容—分節型社縁社会からクロスオーバー—型意味縁社会へ」藤田英典
「メディア環境と子ども・若者たちの身体—背景・言説・感覚」藤村正之
「メディア環境のなかの子ども文化」吉見俊哉 ほか
- II：教育の場域とニューメディア**
「教育とメディア—日本における確約の状況」今井康雄
「戦後教育におけるメディア意識の論理構成—〈特性〉としてのメディア・〈作用〉としてのメディア」大多和直樹
「電子ネットワークが広げる子どもの可能性」美馬のゆり ほか
- III：情報社会の病理?**
「『テレビゲームと暴力』問題の過去、現在、未来—社会心理学における研究の動向」坂元 章
「テレビゲーム遊びが人間の暴力行動に及ぼす影響とその過程—女子大学生に対する2つの社会心理学実験」坂元 章・尾崎 恵・成嶋暎子・森 津太子・坂元 桂・高比良美咲子・伊部規子・鈴木佳苗・泉 真由子
「情報通信の病理—親和コミュニケーションの衍滞」藤井亮英 ほか
- IV：ニューメディアと若者 (1)**
「ケータイとコミュニケーションの変容」若者のコミュニケーションの変容と新しいメディア」辻 大介
「若者の友人関係と携帯電話利用—関係希薄化論から選択的関係論へ」松田美佐
「ケータイは『反社会的存在』か?—断片化する関係性」鈴木謙介・辻 大介 ほか
- V：ニューメディアと若者 (2)**
「インターネットのコミュニケーション空間」佐佐保事件におけるマスメディア報道とインターネット—観メディア性が立ち現れるマスメディア〈述論〉」高橋悦子
「私語と輿論の変換装置—『ネット世論』の行方」柴内康文
「ネットは若者をいかに変えつつあるか」浅野智彦 ほか